

## ロータリーの二重人格

前回の炉辺談話では、社会奉仕や国際奉仕に属する人道的奉仕活動が盛んですが、これらの実践活動をする前に奉仕理念を十分に研鑽する必要性があることを強調しました。それは理念の裏づけのない行動はエネルギーの無駄遣いに過ぎませんし、返って危険なことさえあるからです。

奉仕理念を研鑽する場合は例会ですから、例会の内容を充実することと、例会に規則的に出席することが必要です。特に日本では、誰が決めたかは判りませんが、例会をたった1時間で済ませるという悪い習慣が蔓延しているせいもあって、例会の中身が空洞化してしまって、ホテルに集まって昼食をたべて、くだらない卓話を聞いて大急ぎで帰るとというのが現実になっているクラブも少なくありません。年間50回の例会として、公式行事を差し引けば卓話を必要とする例会は40回弱しかありません。すなわち平均的なクラブならば、卓話の順番は年間1回しか回ってこないことになります。年間たった1回の卓話ですから、十分時間をかけて準備して、会員の心にいつまでも残るような素晴らしい卓話ができるはずなのに、現実決してそうではありません。中には外部からセールスマンを呼んできて商品の宣伝の場を与えたり、手品や漫談で貴重な卓話時間を浪費する卓話者すらいます。毎週ホテルの豪華な部屋に集まって、贅沢な食事を摂って、くだらない卓話を聞いて別れるのならば、額に汗をしながらボランティア活動をする方がよっぽど増した、という理由で、外部におけるボランティア活動がメイクアップの対象になったようですが、これはとんでもない間違いです。例会に参加することによって親睦を深め、奉仕理念を研鑽し、その結果として高められた心を持って奉仕活動の実践に当たるのですから、奉仕活動の実践を以って奉仕理念の研鑽の代替とすることはできないからです。

例会の内容が形式的で空虚ならば、その結果を以って例会を軽視するのではなく、その内容を充実して価値のあるものにしなければなりません。事業所で経済活動をしていれば大きな利益を得られるのに、その貴重な時間を割いて例会に参加しているのですから、事業活動をして得る利益より奉仕活動の実践には熱心ですが、奉仕理念の研鑽にはあまり興味を示さない会員が増えているように思われます。

私はRIのコーディネーターなどを仰せつかった関係で、外国のロータリアンと接する機会も多いのですが、欧米系のロータリアンはその傾向が強いようです。日本でも、あまり難しいことを言って退会されると困ると言って、ろくな情報提供もしないクラブもあるようですし、特に若い会員にはその傾向が強いようです。鉄は熱いうちに打てという格言通り、なるべく早い段階でロータリーの理念を十分勉強してもらい必要がありますし、クラブにもその責任があります。

奉仕理念の研鑽を怠って、奉仕活動の実践にのみに狂奔するのも困りものですが、もっと始末に負えないのが、理屈だけを弄して、全く奉仕活動の実践には無関心な会員の存在です。ロータリーの綱領は、決議23-34は、職業奉仕理念はと、いかにもロータリーの理論ならば私に聞きなさいとでもいうように理屈をこねますが、WCSやその他の人道的奉仕活動にまったく参加したことがない人が余りにも多いのが日本の現状です。或る程度の年齢で、在籍年数も長い会員に多いようですが、その知識が決して深くないことは、何か事があると決議23-34と言いながら、その第4条「奉仕するものは行動しなればならない。ロータリー哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的に行動に表さなければならぬ。」を自ら証明していないことから明らかです。理屈をこねる会員は往々にしてこのような二重人格を持っていることが多いようです。

あなたは WCS のプロジェクトに参加して、外国に行きましたか。

奉仕活動の実践に参加したことのない人は、ロータリーの奉仕理念を説く資格はありません。ロータリーの哲学は実践哲学であることを忘れてはなりません。

2006 年 8 月 10 日